

## 標茶町立標茶小学校 フィールド学習 実施内容

### 《概要》

[日程] 2019年5月24日(金)

[参加者] 5年生児童45名

[講師・案内] 環境省 矢部自然保護官、渡辺自然保護官補佐  
山本・安田(公益財団法人 北海道環境財団)

[フィールド学習の目的]

・体験活動を通して、湿原に関わりのある様々な環境、事象について関心と理解を深める。

[実施プログラムの概要]

9:40 達古武オートキャンプ場到着

9:55 オリエンテーション、苗畑でのフィールド学習

10:05 夢が丘遊歩道でのフィールド学習

12:35 フィールド学習終了

### 《実施内容(記録)》

#### ■オリエンテーション(9:55)

##### ○挨拶(環境省 矢部自然保護官)

皆さんが今いる場所は日本で一番広い湿原の釧路湿原の一部にいる。普段、環境省のレンジャーとして、その湿原を守る仕事をしている。今日は、釧路湿原がどんなところか少しでも知ってもらいたいと思う。わからないところはスタッフに聞いてもらいたい。(スタッフ紹介)



##### ○スケジュールの確認(北海道環境財団 山本)

今日はお昼をここで食べてから学校に帰る。まずは、この場所でいろいろなものを見てもらったり、お話を聞いてもらう。その後、2グループに分かれて森の中にある道を探検し、いろいろなものを見つけてもらいたいと思う。本当は釧路湿原が見える場所まで道は続いているが、今日は途中まで行って引き返してくる。途中まででも面白いものがいっぱい見ることができるので、いろいろなものを発見してもらいたい。

#### ■苗畑でのレクチャー、森や苗木の観察(環境省 矢部自然保護官)

目の前の畑を見てもらいたい。何の畑かわかるだろうか。これは木の畑で、この山から種を取ってきて育てている。周りの森を見たときに、色や葉の形が違うことがわかるだろうか。目の前の森と左側にある森は感じが違うことがわかると思うが、何が違うか教えてもらいたい。

(葉の色と大きさ、緑が多いと子どもたちの声) 山にはいろいろな木があるが、正面の木はこの地域に元々生えていた木。秋には葉の色が変わり、冬になると葉を落とす。左側の森は木の先がとがっている形をしており、クリスマスツリーに形が似ている。この木は、元々はこの地域になかった木。みんなの机や建物を作るために昔植えた木。いろいろな木が釧路湿原の周りにいっぱい生えている。釧路湿原は一年中水で湿っているイメージがあるかと思うが、森に降った水がゆっくり地面に浸み込み、湧き水として湿原まで流れていく。元々この地域になかった森では、その湧き水が出なかったりということも起こってきて、元々あった森に戻そうということでは行っている。目の前にある畑では、元々あった森からとった種で苗木を作って、大きくして、森に植え、元の森に戻していこうとしている。そうすることで、湧き水が出るようになり、釧路湿原が水で潤い、湿原のまま保たれる。



## ■ 2グループに分かれて、夢が丘遊歩道でのフィールドワーク (10:05)

※以降は1つのグループの活動を記録 (案内：北海道環境財団 山本)

### ○フィールドワーク前の注意点の確認

途中で水飲み休憩をとるが、5年生で各自判断できる年齢だと思うので、誰に断りを入れなくとも各自で水を飲んでもらいたい。ただし、戻ってくるまでになくなってしまおうと困るので、一回に飲む量は考えて飲んでもらいたい。万一なくなってしまうたら、我慢せずに言ってもらいたい。予備の水を持っているので、少し分けてあげることができる。



このフィールドにもハチがいる。ハチは何が怖いのか？ (刺すことと子どもたちの声)。ハチは刺したいと思っているわけではなく、自分の身を守ろうとして刺す。ハチの気持ちは私たちにはわからないが、こうすればハチが起こらない、刺してこないという方法はいろんな人が教えてくれている。どうするか知っているだろうか。(動かない、頭を守る、じっとしていると子どもたちの声) そう。自分が石になったつもりで、草になったつもりで、動かない。一番やってはいけないことは何だろうか。(逃げると子どもたちの声) 逃げるよりも悪いことは何だろうか。手で振り払ってしまうと、ハチは怒って刺してくるので、手で払いのけることは絶対にやらないようにしたい。ハチが来たら大人に静かに指をさして伝えてもらいたい。大人がかけつけて対応するので、皆は動かないでいてほしい。

また、今日はいろいろなものを手で触ってもらいたいが、触ってはいけない草もある。痛かったり、かゆくなったりする草がある。歩き始めてから、実際にその草があったら、そこで説明する。触ってはダメなこともあるということ覚えておいてもらいたい。

### ○ドングリの赤ちゃんについてのレクチャー

歩き始める前に、ここの畑について少しだけお話をしたい。ここの木の赤ちゃんは何歳くらいだろうか。（1歳、2歳と子どもたちの声）木はどこから1歳と数えるかわかるだろうか。ドングリは秋に落ちて、次の春に芽が出る。この芽が出た時が0歳。ここにある木は1歳から3歳くらい。芽が出たばかりの木の赤ちゃんもここにいるので、移動する時に確認していきたい。



（畑に植えられた苗を取り出して子どもたちに見せる）ドングリはとがった方から芽と根が出てくるが、根は実は冬の間に地面に出てくる。春になって温かくなると地面の上に芽が出てくる。この苗が0歳。1年で3cm～5cmくらい伸びるとすると、周りにある木の大きさになるまで、結構な時間がかかっていることがわかると思う。（直径25cmのミズナラの円盤を見せる）ドングリの木の円盤で、この子が大きくなったもの。何歳くらいと思うだろうか。（30歳、50歳、80歳、100歳以上で聞く）先ほど数えたところ、85歳だった。このくらいの太さで85歳と聞いて、皆はどう思っただろうか。自分の体くらいの太い木はもっともっと年月が経って大きくなっていることがわかるかと思う。私たちは生活の中でいろいろな場面で木を使っている。そうした木は大きくなるまでに結構な時間がかかるので、大事に使っていかれたらと思う。

学校の周りにも木の赤ちゃんがいるかもしれないので、探してみしてほしい。木の赤ちゃんとの草の違いは何かわかるだろうか。（固いと子どもの声）今の時期はわかりにくいですが、草は冬に枯れてしまうが、木は枯れない。葉はなくなるが、ぼっこのようなものが残っている。秋に地面から木のぼっこが生えていたら、これは木の赤ちゃんじゃないかなと見てもらいたい。

### ○ハチのトラップの観察（子どもたちが気になるものとして発見）

ペットボトルの中にハチが好きな甘い香りがするものを入れている。ハチが舐めに来て、出ることができずに溺れて死んでしまう。なぜ、このようなものを吊るしているのだろうか。（人を刺すからと子どもたちの声）皆が答えてくれた通りだが、森の中に暮らしているハチが悪者というわけではない。ここは道があり人が通るので、人が多く通ると自分を守るためにハチも刺してくる。このため、ごめんなさいと





いう気持ちで、このトラップをぶら下げて、ここにはハチの巣を作らせないようにしている。ハチも森の中で大切な役割を果たしていて、ハチが悪いというわけではない。今日も道を散策していたら、ハチのトラップがかけてあると思う。ごめんなさいという気持ちで見たい。

### ○遊歩道入り口

歩きながら見つけてもらいたいものをスケッチブックに書いてきた。ここでも何かを見つけてもらいたいと思っている。何を見つけてもらうと思うか？（魚、アメンボ、鹿などの子ども達の声）ここでは、お魚を見つけてもらう。川の中に住んでいる色々な虫も見つかるかもしれない。いろいろなものを見つけてもらいたい。



本当は、水に入って捕まえてもらいたいのが、この川は浅く見えるけども底がぬかるんでいて、長靴が沈んでいくので、皆の長靴では足が濡れてしまう。このため、今日は川の中に入るのはNG。手を水につけて冷たさを感じるなどは大丈夫。魚を見つけてもらうといっても、魚は隠れているので、今日は網を使って魚を探してもらいたい。もう少し湖の方まで移動する。

### ○小川で魚の観察

生き物が捕れたら観察水槽に入れて、皆で観察したい。網は交代しながら使ってもらいたい。皆は網をどのように使おうと思うか？（下からすくう、挟みうちと子どもの声）魚はどこに隠れているかというところ、草の下など、見つかりにくいところに隠れている。魚とり名人が教えてくれた方法は、網を動かさずに、上流から網に追い込むのが良いとのこと。皆には、網を構えてもらい、自分が追い込んでいくので、上手く捕まえてもらいたい。（網の中に入った生き物を観察水槽に入れる。下流側に移動しながら、何度か繰り返し、捕れた生き物を観察する。）



今日捕れた魚は、ここに昔からいる。サクラマスの子のヤマメ。トゲウオの仲間、ドジョウ、ハゼの仲間、ヤゴ、ヨコエビなどが捕れた。皆で見た後は、川に戻してあげたい。

魚がいるということは、魚の食べ物があるということで、エビ、葉っぱ、葉っぱについている小さな虫などがいっぱいいるということ。また、隠れ家も必要で、ここには、そうした隠れ家もいっぱいある。そういう場所に魚は隠れて生活している。これから、総合学習で勉強をしていくと思うが、魚に興味を持ってまた探してみる子がいるかもしれない。その時に捕れなかったとしても、いないわけではなくて、上手く隠れているんだなと思ってもらいたい。

ここにある水は皆からすると、きれいだろうか、汚いだろうか（きれいという子どもたちの声）。この水は実は全てが湧き水で、冷たく、透明。一方で川の岸や底は皆から見てどう思うだろうか（まあまあ汚いという声）。汚いと思えるかもしれないが、生き物が住むには良い場所になっていて、こうした場所があるから魚も住むことができる。



### ○イラクサの群生地

シソの葉に似ているが、これがイラクサと言って、触ってはいけない草。触ると肌がかゆくなったり、痛くなったりするので、素手で触らないで欲しい。



### ○いろいろなものミツケ

#### ・キノコを見つける

キノコは弱った木についているので、歩きながらキノコがついている木を見つけたら、この木は弱ってるんだなと思って見てもらいたい。



#### ・木に空いた穴を見つける

きれいな丸い穴は子どもを育てるために空けた穴。奥深くまで掘り進んでいないものは、実際には使われていなくて、作りかけ。入り口だけ作ったけれど、違う場所に巣をつくったのだろう。小さなもの、細長いもの、はしがギザギザのものは、エサを食べるために掘った穴で、2つの穴は、空けられた目的が違う。



穴が空けられているこの木は、実は死んでしまっている木。生きている木と何が違うかわかるだろうか。他の生きている木を比べてみるとわかると思う。（枝や葉がないという子ども達の声）。そのとおりで、この時期には、周りの木は葉っぱが多くついているが、この木は葉がついていない。木は葉で栄養をつくっているのだから、葉をつけていないということは、栄養を作ることができず、死んでしまっているということ。こうした森の中で死んでしまった木というのは、とても大切で、こういう木に虫が住み着き、その虫を食べるために鳥たちがやってくる。皆の



学校の周りにもキツツキもいて、穴が空いた木もあるはずなので、ぜひ見つけてもらいたい。木の下に木のくずがあったら、最近木をつついたんだと思ってもらいたい。

- 水の音を見つける

感覚を研ぎ澄ませるために、目をつむってもらいたい。最初は練習で、太陽がある方向を指さしてもらいたい。次に水の音がする方を指さしてもらいたい。丘のほうからチョロチョロという音が聞こえただろうか。先ほどお話しした湧き水が流れている音。



- 鳥の声を見つける

いろいろな場所で声がしたと思う。その場所の数だけ、鳥がいるということ。また、ウグイスのホーホケキョではない声を聞いた子はいただろうか。違う声が聞こえた子は、いた鳥の種類が違うということ。鳥は種類によって鳴き声が違うと、自分は思うので、学校に帰ったら調べてもらいたい。



鳥を調べたいなと思った子がこれから出てくるかもしれない。その時、鳥の姿を見るということとはとても難しいということ覚えてもらいたい。僕らに見つかるといことは、鳥を餌にしている生き物にも見付きやすいということ。鳥は食べられないように、できるだけ見つかからないようにしている。僕らが見つけられるということは当たり前ではなく、偶然見つけられたと思ってもらいたい。どんな鳥がいるんだろうと調べる時、鳥の鳴き声でいるかどうかを調べるほかない。自然の中では、直接見れないものの方が多い。その時、音というものはとても大切になるので、覚えておいてもらいたい。

- 大きな葉っぱ

よく見るといろいろな葉っぱの植物がいると思う。この大きな葉っぱの植物は、その中でも水がとても好きな植物で、名前も「ミズバショウ」といって、名前に水がついているほど。目に見えないかもしれないけども、このミズバショウが生えている場所には、地面の下に水がある。



一番奥に湖が見えるが、その手前にあるのは何色だろうか。（茶色、枯れた色と子どもの声）あの湖の横に生えている植物は、目の前にいる植物の中では水にとっても強い。湖と同じくらいの高さの平らな場所に生えている木も水に強い種類が生えている。一方で斜面の方に生えている木、植物を見ると、少し違う種類が生えていることがわかるだろうか。斜面の方に生えている木や草は、水がいっぱいあると生きていけない種類が生えている。実は、自然の中にいる生き物は、他の生き物と競争をされていて、植物で言えば、水、光、場所とりなどをして常に競争をしている。水が多いところに生えている植物も、斜面の方で生きていけないわけではなく、斜面の方に今いる植物の方が強いので、競争に負けて生きていけない。逆に斜面の方にいる植物は、水辺の方に行くと生きていけない。それぞれが、得意、不得意があり、周りにいる植物は、それぞれ得意な場所に生えている。このため、光や水の環境によって、生えている植物が違ってくるということになる。

- ・ 巣作り中のコゲラ

巣穴から顔を出しているのを見つけてみて欲しい。（皆、見つけて大興奮）



- ・ アカゲラの掘りかけの巣穴

木の穴も新しく、下に木くずが落ちているので、現在、掘っている途中の巣穴と考えられる。



### ○湧水と湿原の植物の観察

湧水が染み出ている場所の近くまで行き、水が染み出している様子を観察す



る。水を触ると冷たいと歓声上がる。  
この水が流れて行き湿原を潤している。  
水の流れに沿って湿原の方へ向かうが、  
今日は特別に許可をもらって入る事を担  
任から説明する。児童それぞれが泥炭の  
感触を踏んで確認し、ミズバショウの大  
きな葉など湿地植物を近くで観察する。



■オートキャンプ場センターハウス到着・フィールド学習終了（12：35）